

官報

號外 昭和二十一年十月五日

○第九十回 衆議院議事速記録第五十一號

昭和二十一年十月四日(金曜日)

午後二時十四分開議

議事日程 第五十號

昭和二十一年十月四日

午後一時開議

第一(改第一號)昭和二十一年度

改定歳入歳出總豫算追加案

第二(改特第一號)昭和二十一年

度特別會計改定歳入歳出豫算追加案

第三(改第二號)昭和二十一年度

改定歳入歳出總豫算追加案

第四(改特第二號)昭和二十一年

度特別會計改定歳入歳出豫算追加案

第五 豫算外國庫の負擔となるべき契約を爲すを要する件

〔朗讀ヲ省略シテ報告〕

一、昨三日貴族院ニ於テ本院カラ送付

ノ次ノ政府提出案ヲ可決シテ、同

院カラ通牒ヲ受領シテ

林業會法案

商工協同組合法案

一、議員カラ提出シテ質問主意書ハ次

ノ通りデアル

地方選舉ニ關スル質問主意書

提出者

岩本 信行君 細田忠治郎君

一、昨三日議長ニ於テ次ノ通り常任委

員辭任ノ許可ガアツタ

官報號外

昭和二十一年十月五日

衆議院議事速記録第五十一號

議長ノ報告(改第一號)

昭和二十一年度改定歳入歳出總豫算追加案外四件

八三九

第七部選出豫算委員 喜多橋治郎君

一、昨三日特別委員理事補選ノ結

果次ノ通り當選シタ

戰時補償特別措置法案(政府提出)外

五件委員

理事 稻村 順三君(上田清次郎

君昨三日理事辭任ニ付其

ノ補闕)

理事 西村 榮一君(奥村又十郎

君昨三日理事辭任ニ付其

ノ補闕)

一、昨三日次ノ通り特別委員ノ異動ガ

アツタ

戰時補償特別措置法案(政府提出)外

五件委員

辭任鈴木茂三郎君 補闕稻村 順三君

辭任前田榮之助君 補闕西村 榮一君

辭任伊東 岩男君 補闕大橋 喜美君

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(山崎猛君) 是ヨリ會議ヲ開キ

マス、日程第一、(改第一號)昭和二十

一年度改定歳入歳出總豫算追加案、日

程第二、(改特第一號)昭和二十一年度

特別會計改定歳入歳出豫算追加案、日

程第三、(改第二號)昭和二十一年度改

定歳入歳出總豫算追加案、日程第四、

報告書

一、(改第一號)昭和二十一年度改

定歳入歳出總豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議

決シタ因ツテコニ報告スル

昭和二十一年十月三日

豫算委員長 矢野庄太郎

衆議院議長山崎 猛殿

報告書

一、(改特第一號)昭和二十一年度

改定歳入歳出總豫算追加案

第二(改特第二號)昭和二十一年

度特別會計改定歳入歳出豫算追加

案

第三(改第二號)昭和二十一年度

改定歳入歳出總豫算追加案

第四(改特第一號)昭和二十一年

度特別會計改定歳入歳出豫算追加

案

第五 豫算外國庫の負擔となるべき

契約を爲すを要する件

報告書

一、(改第一號)昭和二十一年度改

定歳入歳出總豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議

決シタ因ツテコニ報告スル

昭和二十一年十月三日

豫算委員長 矢野庄太郎

衆議院議長山崎 猛殿

報告書

一、(改特第一號)昭和二十一年度

改定歳入歳出總豫算追加案、(改特

第二號)昭和二十一年度特別會計改定

歳入歳出總豫算追加案外四件

報告書

一、(改第一號)昭和二十一年度改

定歳入歳出總豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議

決シタ因ツテコニ報告スル

昭和二十一年十月三日

豫算委員長 矢野庄太郎

衆議院議長山崎 猛殿

報告書

一、(改特第一號)昭和二十一年度

改定歳入歳出總豫算追加案、(改特

第二號)昭和二十一年度特別會計改定

歳入歳出豫算追加案、豫算外國庫の負

擔となるべき契約を爲すを要する件、

右五案ニ付キマシテ、豫算委員會ノ經

過並ニ結果ヲ御報告致シタイ存ジマ

ス

豫算ノ内容ニ付キマシテハ、議事録

ニ掲載セラレテ居リマスル政府ノ説

明、及ビ皆サンノ御手許ニ配布セラレ

テアリマスル豫算書ニ總テ之ヲ譲リタ

イト存ジマス、唯去ル八月二十日ト記

憶致シマスルガ、當議場ニ於テ豫算ノ

純粹ノ合計、所謂純計ヲ御報告致シマ

シタノデ、ソレニ連レマシテ、此處ニ

提案サレテ居リマス、豫算案ニ付テ

モ、其ノ純計ヲ明カニシテ、日本財政

ノ全貌ヲ明確ニシテ置ク必要ガアルト

信ジマスルノデ、暫クノ間無味乾燥ナ

ル數字ヲ羅列スルコトノ御許シヲ願ヒ

タイト存ジマス

先ヅ一般會計カラ御報告致シマス、

一般會計ノ追加第一號、第二號ノ合計

ハ、只今申上ゲマシタ議題デハ改第

一號、改第二號ニ當リマス、其ノ合計ハ歳

入歳出共ニ九十七億二千四百餘萬圓ト

相成ルノデアリマス、御承知ノ通り一般

會計ハ歳入歳出共ニ同額デナレバナ

ラスノデゴザイマス、之ヲ、先般此處デ

御報告致シマシタ改定總豫算ノ五百六

十億八千八百餘萬圓ニ合計致シマスル

ト、一般會計ノ歳入歳出ハ共ニ六百五

十八億一千三百餘萬圓、凡ソ六百六十

億圓ト相成ルノデゴザイマス、此ノ六

百六十億圓ガ如何ナル意義ヲ持ツカト

云フコトハ、種々ノ觀點カラ之ヲ考察

スルコトガ出來マスルケレドモ、先ヅ

差當ツテ一番簡明ナ方法ト私ガ思ヒマ

スコトハ、二十年度ノ豫算ニ比較スル

コトデアルト思ヒマス、二十年度ノ豫

算ハ、先般此處デ御報告申上グル際

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

ニ、一般會計二百九十二億圓、臨時軍
事實費八百五十億圓ト申上ゲマシタガ、
其ノ合計ハ一千四百四十二億圓ニ相成ル
ノデゴザイマスガ、此ノ間ニハ重複勘
定ガアリマスノデ、其ノ重複勘定ノ約
百億圓ノ差引キマス、昨年度ノ行政
費及ビ軍事費ノ合計ハ、一千四百十二億
圓ト相成ルノデゴザイマス、併シナガ
ラ是ハ占領地ニ於テ歳出ヲシ、占領地
ニ於テ歳入ヲ致シテ居リマス、其ノ占
領地ニ於ケル歳入歳出ヲ切落シマス
ト、此ノ一千四百十二億圓ハ、凡ソ七百
億圓ニ落チテラウト云フ、或ル方
面ニ於ケル調査ガゴザイマス、若シ七
百億圓ニ落チテラウト假定致シマスナ
ラバ、今年度ノ六百六十億圓ノ重大ナル
意義ガアルト信ズノデゴザイマス
次ニ特別會計ニ付テ御報告致シマ
ス、特別會計ハ、歳入ト歳出トハ必ズ
シモノ一致致シテ居リマセス、何故ニ一
致シナイカト申シマス、例ヘバ厚生
年金保險ノ如キハ、歳出ハ少イガ、歳
入トシテ保險料ガドンドン入ッテ來
ル、其ノ保險料ハ積立テ、預金部デ
預金ヲスルト云フ關係ニナツテ居リマ
ス等ノ爲ニ、歳入ト歳出トハ必ズシモ
同一デハナイノデゴザイマス、隨ヒマ
シテ特別會計ノ方ハ、歳入ト歳出ト
別々ニシテ御報告致シマス
先ヅ歳入ヲ申上ゲマスガ、歳入ノ追
加案、此處デ改特第一號、改特第二號
ト言フモノデアリマスガ、其ノ合計ハ
八百三十八億六千九百餘萬圓ト相成リ
マス、其ノ八百三十八億餘萬圓、之ヲ
一般會計ノ追加ノ歳入——只今申シマ
シタヤウニ一般會計ハ、歳入歳出同額デ
アリマスガ、其ノ歳入ノ九十七億餘萬
圓ニ合計致シマス、其ノ追加歳入額
ハ、即チ一般會計ト特別會計ト合計シ

テ、九百三十五億九千四百餘萬圓ト相
成ルノデアリマス、所ガ之ニハ非常ナ
大キナ重複勘定ガゴザイマス、先ヅ二
口ニ分ケテ申シマス、ト申シマシテモ
一口、一筆ト云フデハゴザイマセス
ガ、同ジ性質ヲ持ツテ居ルモノノ一口
トシ、他ノ異ナル性質ヲ持ツテ居ルモ
ノヲ他ノ一口トシテ二口ト申シテ居リ
マス、一口ハ四百二十二億五千四百餘
萬圓ト云フ重複勘定ヲ持ツテ居ルノデ
ゴザイマス、此ノ口トダケデモ、如何
ニ日本ノ財政ガ複雑ナモノデアルカト
云フコトハ御分リナル存ジマス、
他ノ一口ハ、財産稅收入ノ、例ノ二百
五十五億八千七百餘萬圓デゴザイマ
ス、此ノ大キナ重複勘定ハ差引致シマ
ス、此處ニ出テ居リマス豫算
ノ、一般、特別兩會計ノ歳入ノ
純計ハ、二百五十七億五千二百餘萬圓
ト相成ルノデゴザイマス、所ガ先般改
定總豫算及ビ特別會計改定豫算ノ際ニ
御報告申上ゲマシタ通り、アノ時ノ歳
入ノ純計ハ、九百六十七億四千三百餘
萬圓デゴザイマス、デアリマスノデ、
此ノ二百五十七億餘萬圓今日ノ純計
先般ノ九百六十七億餘萬圓ト合計致
シマス、歳入ノ純計ハ、一千二百二
十四億九千六百餘萬圓、約一千二百二
十五億圓ト相成ルノデゴザイマス、是
ガ、此ノ九十議會ニ於テ此處デ審議セ
ラレマシタ政府ノ歳入ノ純計デアルノ
デアリマス
次ニ特別會計ノ歳出ヲ御報告申上ゲ
マス、特別會計ノ追加ノ歳出ノ合計
ハ、八百三十三億六千二百餘萬圓トナ
ツテ居リマス、歳出ハ八百三十八億六
千九百餘萬圓デゴザイマスカラ、約一
億圓ノ相差ガゴザイマス、ソレデ之
ヲ、只今申シマシタ一般會計ノ此ノ追

加豫算ノ歳出ノ九十七億餘萬圓ニ合計
致シマス、只今議シテ居リマス特別
會計ノ追加案ノ歳出ノ八百三十九億餘
萬圓ト合シタモノハ、即チ九百三十六
億八千七百餘萬圓ト相成ルノデゴザイ
マス、所ガ之ニモ、歳入ト同ジヤウニ
非常ニ大キナ重複勘定ガゴザイマス、其
ノ重複勘定ハ六百七十七億七千五百餘
萬圓ト云フノデアリマス、斯様ナ重複
勘定ハ差引キマス、只今申シマシタ
九百三十六億餘萬圓ハ、僅カニ二百五
十九億一千四百餘萬圓トナルノデゴザイ
マス、是ガ只今申上ゲテ居リマス追加
豫算歳出ノ純計デゴザイマス、一般ト
特別トノ兩會計ノ、之ヲ先般此處デ御
報告致シマシタ改定豫算ノ歳出純計ノ
九百四十億五千五百餘萬圓ニ合計致シ
マス、其ノ歳出ノ純計ハ、一千九百
十九億六千六百餘萬圓トナルノデアリ
マス、是ガ九十議會ニ於テ今日マデ審
議シタ所ノ、政府豫算ノ歳出ノ純計デ
アルノデアリマス、斯様ニ見テ參リマ
ス、先ヅ歳入ニ於テ、本年ハ今日ノ
所一千二百二十五億圓、歳出ハ一千二
百億圓、二十五億圓ノ歳入超過ニナツテ
居ルノデアリマスケレドモ、是ハ歳入
ニ於テ、後ニ申シマシテ居ル結果デアリ
マス、ソレデ二十五億圓モ餘ルノナラ
バ、公債ヲ發行シタリ、借入金ヲスルノ
ヲ減シタラドウカト云フ疑ヒガ起ルノ
デアリマスガ、是ハ冒頭ニ申上ゲマシ
タヤウニ、積立金ヲセナケレバナラス
關係等ガアリマシテ、此ノ二十五億圓ト
云フモノガ歳入超過ニナツテ居ルノデ
アリマス、先ヅ大體毎月此ノ豫算ニ依
ツテ國庫ニ出入スル金ハ、平均約百億圓
ト云フ勘定ニナルノデアリマスガ、國庫
ハ御承知ノ通り、政府ノ財政ノ外ニ、此

ノ歳計以外ノ出入ノ金ガゴザイマス、
其ノ最も大キナモノハ、郵便貯金デア
ルノデゴザイマス、左様ナ次總デアリ
マスノデ、千二百億或ハ千二百二十五
億ト云フモノガ國庫ニ出入スルノデナ
クシテ、國庫ニ出入スル金ハ、是ヨリ
モ非常ニ大キナ金ニナルノデアリマ
ス、非常ニ、トハ少シク形容ガ過ギマ
シタガ、是ヨリハ相當ニ大キナ數字ニ
ナルノデゴザイマス
次ニ此ノ豫算ヲ實行スルニ當ツテ、
幾許ノ公債ヲ發行スルカト云フコトヲ
申述ベマス、此ノ各豫算書ヲ見マスル
ト、公債ハ一文モ發行シナイノドラウ
ト思ツテ居リマシタ所、案外澤山ノ公
債ヲ發行シテ居リマス、先ヅ一般會計
ニ於テ四十二億圓、鐵道會計ニ於テ約
三十億圓、通信會計ニ於テ約十一億
圓、財産稅等收入金特別會計、今度新
ラシク出來マシタ特別會計ニ於テ百八
十七億圓ノ公債ヲ發行致シテ居ルノデ
アリマス、是ハ物納デ入りマス所ノ財
產ヲ見合ヒニシテ、公債ヲ發行スルノ
デアリマスカラシテ、何レ短期ノモノ
デアツテ、其ノ財産ガ賣却出來タナラ
バ、此ノ公債モ償還サル、モノト思ヒ
マスルノデ、此ノ點ニ於テ稍、安心シ
テ宜イカトモ考ヘマスルガ、兎ニ角モ
合計ニ於テ二百六十九億九千餘萬圓ト
云フ、龐大ナル公債ヲ發行シナケレバナ
ラスコトニ相成ツテ居リマス、此ノ外
ニ地主カラ買取ル所ノ土地代金トシ
テ、農地證券ハ本年度ニ於テ三十二億
餘萬圓發行スルコトニナツテ居リマ
ス、之ヲ合セマス、公債發行額ハ三
百億圓以上ニ相成リマス、此ノ三百億
圓以上ノ公債、假ニ百八十七億餘萬圓
ノ公債ヲ除キマシテモ、公債發行額
ハ、農地證券額ヲ合セルト百十五億圓

ニナリマス、此ノ龐大ナル公債何ニ
比較スルカト申シマス、私ハ先ヅ支
那事變中ニ幾許ノ公債ヲ發行シタカト
云フコトヲ見タイト思ヒマス、支那事
變中ノ公債發行額ハ、大體五十億圓程
度デゴザイマシタ、大東亞戰爭開始ノ十
六年ニハ、百二十七億圓ノ公債ヲ發行
致シテ居ルノ過ギマセス、隨ヒマシテ
本年度ニ於ケル公債發行額ハ、私ハ龐
大デアルト言フノデゴザイマス、ソレ
カラ借入金ハ幾ラカト申シマス、借
入金ハ、通信會計ニ於テ四億四千萬
圓、鐵道會計ニ於テ五千七百餘萬圓、
爲替交易調整特別會計ニ於テ二千九百
餘萬圓、是ハ先般大藏大臣ガ四億二千
九百餘萬圓ト報告シテ、後ニ訂正セラ
レマシタ、貿易資金百餘萬圓、此ノ借
入金ノ合計ガ五億二千八百餘萬圓ト相
成ルノデアリマス、何レモ長期借入金
デゴザイマス
以上豫算案ニ關シテ、純計其ノ他之
ニ關聯スル數字ヲ申上ゲマシタガ、此
處ノ議題デハ、豫算外契約ノ案件ガ出
テ居リマス、豫算外契約ノ案件ヲ見マ
スルト、嚙ノ増産獎勵金ヲ、五箇年度
内ニ於テ十四億餘萬圓、鐵道用品勘定
ニ於テ、五箇年度内ニ五億圓ノ國庫負
擔トナル契約ヲナスト云フコトニ相成
ツテ居リマス、他ノ豫算外契約ノ案件
ハ、大シタ金額デハゴザイマセス
以上議案ニ付テ大體説明ヲ致シマ
シタガ、委員會ハ會期切迫ノ折、成ベ
ク短期間ニ於テ之ヲ終了致シタイト存
ジマシテ、斯様ニ理事諸君ノ御諒解ヲ
得テ取計ラツタノデゴザイマス、其ノ
短期間ニ於テ、委員諸君ハ、或ハ新圓
封鎖ノ問題、或ハ新圓吸收ノ問題、或
ハ政府職員給與改善ノ問題、又米價ハ
幾許ニスルカ、水產物ノ統制ハ撤廢シ

タラ宜イデハナイカ、又憲法實施ニ付テ其ノ普及ノ必要ガアルデハナイカ、其ノ方法ヲドウスルカ、或ハ豫算ノ編成ヲ今少シク簡明化シタラドウカ、又或ハ宗教問題、或ハ教育ノ問題ニ付テ、熱心ナル質疑ガナサレマシテ、政府ノ答辭ヲ得タノデアリマスガ、總テ是ハ速記録ニ讓リタイト存ジマス

唯此ノ席上ニ於テ、二ツノ事項タケヲ稍、詳シク御報告致シタイト存ジマス、ソレハ實ハ理事會ヲ開イテ、一時間餘ニ互ツテ各派ノ理事ノ諸君デ議ヲ練リマシテ、サウシテ質問ヲスルト云フコトニ相成ツタ事項デゴザイマス、其ノ事項ヲ今讀上ゲマス、無論私ガ質問ヲ致シタノデゴザイマスケレドモ、是ハ各派ノ理事ノ一致シタ意見デアツテ、即チ豫算委員會ノ總員ノ意思デアツテ、決シテ私ノ發意デハゴザイマセス、其ノ第一問ハ、政府ハ明二十二年度ニ於ケル財政計畫ヲ有スルヤ否ヤ、二十一年度ニ於テハ、今日ノ所既ニ八十三億圓ノ公債發行ヲ豫定セラル、八十三億圓ト申シマシタノハ、先刻公債ノ所デ申シマシタヤウニ、百八十七億圓ノ、財産稅等收入金特別會計ニ於テ發行スル公債ノ金額ヲ除イタノデアリマス、其ノ上四百三十五億圓ノ財産稅收入モ、既ニ三百十億圓ヲ使用スルコトト相成リ居リ、殘餘ハ僅カニ百二十五億圓ニ過ギズ、今後ノ追加ヲ考フル時ハ、恐ラク二十一年度中ニ全財産稅收入ヲ食潰シテモ、尙ホ未ダ多額ノ不足ヲ告グルモノト思ハル、政府ハ本年七月藏相ノ財政演說中ニ於テ、本年度限リノ經費トシテ二百九十七億圓ニ上ル多額ノ費用ヲ計上セルガ、其ノ主張ノ如ク果シテ減額シ得ル自信ヲ有スルヤ、政府ハ屢、赤字ハ恐レズ、唯恐ル

ル所ハ生産増強成ルヤ否ヤアリト主張セルガ、就テハ明年度ハ赤字財政ヲ以テ其ノ支出ヲ乗切ラントスルヤ、右ニ對スル政府ノ所見如何、ト云フノデゴザイマス、ソレニ對シテ石橋大藏大臣カラ答辭ヲ得テ居リマス、今過チテ避ケル爲ニ、此處ニ速記録ヲ持參致シテ居リマス、此ノ速記録ニ依ツテ御報告ヲ致シマス、(明年ノ財政計畫ハ、御承知ノヤウニ今度ノ議會ガ選レ、改定豫算ノ提出等ガ遅レマシタ關係デ、目下其ノ豫算ノ編成ニ著手シ始メマシタケレドモ、非常ニ遅レテ居リマスノデ、今日マダ確定タルコトヲ申上ゲ兼ネル次第デアリマス、財政計畫ニ付テハ斯様ナ答辭デアリマス、ソレカラ二十一年度ノ今後ノ見透シデアリマス、米ノ價格ノ補給金ニ付キマシテハ、目下米ノ價格其ノモノガ近ク決定サレル筈デアリマスガ、未ダ決定サレテ居リマセヌノデ數字ハハッキリ致シマセヌケレドモ、出來ルダケハ壓縮致シタイ、委員長ノ御話ノヤウニ六十億圓ヲ起ユルト云フガ如キコトハナイ積リデアリマス、私ハ質問ノ時ニハ六十億圓トハ申シマセヌガ、私ノ計算デハ六十二億圓要ルト思ツテ居リマスノデ、豫メ大藏大臣ニ其ノコトヲ傳ヘテ置イタノデアリマス、ソレカラ石炭ノ補給金ノ問題ハ、取敢テ十月マデノ補給金ヲ計上シタコトハ先般申上ゲタ通り、十一月以後ノ問題ハ、目下石炭ヲ如何ニ處理スルカト云フコトヲ檢討中デアリマスノデ、確定ヲ致シテ居リマセヌ、併シ大體ノ方針ト致シマシテハ、補給金制度ハ廢メルト云フ方法ニ持ツテ行キタイト考ヘテ處理ヲ致シテ居リマス、斯様ナ譯デ昭和二十一年度ノ豫算ニハ、米及ビ其ノ他ヲ加ヘマス、

尙ホ何レ追加豫算デ御審議ヲ願ハナケレバナラナイ金額モアリマスガ、此ノ財源ニ付キマシテハ、財産稅ヲモ使用スル必要ガ生ズルデアラウ、是ハ御言葉ノ通りデアリマス、併シ尙ホ其ノ上ニ多額ノ不足ヲ生ズルト云フガ如キコトハナイ積リテ居リマス、此ノ點ハ理事諸君デ作リマシタ案トハ違ツテ、大藏大臣ハ多額ノ不足ヲ生ズルトハナイト當ツテ居リマス、ソレカラ終戰處理費等ノ本年度限リノ經費トシテ學ガマシタコトハ、其ノ當時モ御説明申上ゲマシタヤウニ、本年度豫算ノ中カラ、性質上本年度限リノ數字ヲ舉ゲマスト、約三百億圓ニナル譯デ、私ハ二百九十七億圓ト只今申シマシタ、約三百億圓ニナル譯デアリマス、其ノモノハ本年度限リデアリマス、明年度ニ於テハ、其ノ當時ヤハリ申上ゲマシタヤウニ、又明年度トシテ必要ノ經費ハ生ズルデアリマセウ、是ハ大分演說ガ違フヤウニ思フノデスガ、マアサウデアツタカモ知レマセヌ、併シナガラ財政全般ノコトヲ考ヘマス、唯漫然ト赤字ニ依ツテ之ヲ年々支辨シテ行クト云フコトノ出來ナイコトハ言フマデモアリマセヌ、私ハ是ハ洵ニ同感ニ思ヒマス、隨テ明年度ノ豫算ニ付キマシテハ、屢、申上ゲマシタヤウニ、極力歳出ヲ減少シ、是モ至極同感デアリマス、又同時に歳入ニ付キマシテハ租稅制度其ノ他ノ改革ヲ行フト同時に、歳入ノ増加ヲ圖リマス、赤字ニ付キマシテハ、是ハ生産ト見合セマシテ、生産増強ニ寄與スル所ノ赤字デアリマスタラバ、斯様ニ人ガ遊ビ、或ハ設備モ或ル意味デハ遊ンデ居ル時代ニ於キマシテハ、之ヲ動カシ得ル目途ガアリマスレバ、赤字公債ヲ發行スルコトモ必

ガシモ不健全デハナイ、斯様ナ考ヘテ持ツテ居リマスガ、無論是ハ生産ト脱ミ合セテノ問題デアリマス、左様ニ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、斯様ナ答辭デゴザイマシタ

ソレカラ第二問ト致シマシテ、是ハ農林大臣ニ對スル質問デゴザイマシタガ、本豫算委員會ハ、全國民ノ要望ニ基キ、豫算委員會全體ノ總意トシテ、去ル八月三日委員長ヨリ政府ニ對シ、食糧危機突破ニ關スル重大質問ヲ行ヒマシテ、國民ノ食糧不安ノ一掃ニ努メタノデゴザイマス、幸ヒニシテ聯合國ノ厚意ト、生産農民ノ協力ト、關係官民ノ努力ニ依ツテ漸ク危機ヲ突破スルコトガ出來マシタガ、新米穀年度ノ新米ノ價格ト需給計畫ガ今日ニ至ルモ發表サレナイ爲ニ、國民ハ未曾有ノ懸念ヲ眼前ニ見ナガラ、食糧ノ不安ヲ解消スルコトガ出來ナイ狀態ニアリマス、今ヤ國民ハ「インフレ」ニ依ル經濟的混亂ト道義ノ頹廢ヲ防止シテ、勤勞意欲ヲ昂メ、生産力ヲ増強シテ日本ノ再建ヲ圖ル前提條件ハ、主食三合配給ヲ實施スルヨリ外ニ途ナシトスル譯ハ、全國民的の輿論ニ即應シテ、主食増配ヲ屢ニ言明サレテ居リマスルガ、其ノ時期ハ何時カ、又増量ノ内容ヲ此ノ際明確ニ發表サレタイト云フコトデゴザイマス、斯様ナ質問デゴザイマシタ、之ニ對シテ農林大臣ハ、是モ速記録ヲ持ツテ參ツテ居リマスルノデ其ノ儘御報告致シマス、御答ヘ致シマス、増配ニ付キマシテハ來ル十一月旬々カラ實施致シタイト考ヘテ居リマス、増配ノ量ニ付キマシテハ、是ハ明確ニ只今御答ヘ致ス自由ヲ持チマセヌガ、出來ルダケ多クノモノヲ増配出來マスルヤウニ、

我々ト致シマシテハ目下努力ヲ致シテ居ル次第デアリマスノデ、左様御諒承ヲ御願ヒ致シマス、斯様ナ農林大臣ノ答辭ニ對シマシテ、理事會ノ申合セニ依リマシテ、社會黨井上良次君及ビ自由黨田中源三郎君カラ關聯質問ヲ致サレマシタ、社會黨井上良次君ハ、働タ人々ニ是非増配ヲセヨト強ク迫リマシタ、ソレニ對シテ農林大臣ハ、三倍ノ増配ヲスルト答辭セラレタノデアリマス、又田中源三郎君ハ、瀬戸内海ノ魚ハ一匹ト雖モ正當ナル「ルート」ニハ上ツテ居ラナイ、是ハ田中君ノ言葉デアリマスガ、私達ハ屢、農林大臣ニ對シテ生産配給ノ綜合對策ヲ樹立スル爲ニ、審議會ヲ作レト迫ツテ居ル、而シテ去ル八月ノ分科會ニ於テハ、至急ニ審議會ヲ作ルト言ヒナガラ、二箇月ノ今日ニ至ルモ何等處置シナイノハ不都合デハナイカト言ツテ、強ク迫リマシタノニ對シテ、農林大臣ハ、今マデノコトハ御記ビスル、早速審議會ヲ作ツテ、民間ノ智慧ヲ拜借シタイト云フ答辭デゴザイマシタ

是デ質問ヲ打切りマシテ、討論ニ入ツタノデゴザイマス、討論ニ入りマシテ、日本自由黨小峯柳多君、日本進歩黨日比野民平君、日本社會黨米窪滿亮君、協同民主黨竹山祐太郎君、國民黨大津桂一君、此ノ五君カラ、或ハ意見ヲ陳述シ、或ハ警告ヲ發セラレマシタガ、結局政府原案ニ賛成デアルト云フコトデアリマシタ、斯クテ採決ニ入りマシテ、可決ノ意見ヲ有スル者ハ起立ヲ願ヒタイト言ツテ起立ニ問ヒマシタ所ガ、總起立ノ裡ニ、以上五案トモ政府原案ノ通り可決確定致シマシタ、私ノ報告ハ之ヲ以テ終リマス(拍手)

○議長(山崎猛君) 採決致シマス、五

案ノ委員長報告ハ何レモ可決デアリマス、五案ヲ一括シテ委員長報告ノ通り決スルニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

【賛成者起立】

○議長(山崎猛君) 起立多数、仍テ五案トモ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ

○推熊三郎君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、帝國鐵道會計又は通信事業特別會計における昭和二十一年度の經費支辨のための借入金等に関する法律案、復興金融金庫及び産業復興營團出資拂込金支辨のための公債發行に関する法律案及び自作農創設特別措置特別會計法案ノ三案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(山崎猛君) 推熊君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

○議長(山崎猛君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、帝國鐵道會計又は通信事業特別會計における昭和二十一年度の經費支辨のための借入金等に関する法律案、復興金融金庫及び産業復興營團出資拂込金支辨のための公債發行に関する法律案、復興金融金庫及び産業復興營團出資拂込金支辨のための公債發行に関する法律案、自作農創設特別措置特別會計法案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——理事菊池長右エ門君

帝國鐵道會計又は通信事業特別會計における昭和二十一年度の經費支辨のための借入金等に関する法律案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

復興金融金庫及び産業復興營團出資拂込金支辨のための公債發行に関する法律案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

自作農創設特別措置特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

帝國鐵道會計又は通信事業特別會計における昭和二十一年度の經費支辨のための借入金等に関する法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議決シタ因ツテコニ報告スル

昭和二十一年十月四日

委員長 本多 市郎

衆議院議長 山崎 猛殿

報告書

復興金融金庫及び産業復興營團出資拂込金支辨のための公債發行に関する法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議決シタ因ツテコニ報告スル

昭和二十一年十月四日

委員長 本多 市郎

衆議院議長 山崎 猛殿

報告書

自作農創設特別措置特別會計法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議決シタ因ツテコニ報告スル

昭和二十一年十月四日

委員長 本多 市郎

衆議院議長 山崎 猛殿

報告書

帝國鐵道會計又は通信事業特別會計における昭和二十一年度の經費支辨のための借入金等に関する法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議決シタ因ツテコニ報告スル

昭和二十一年十月四日

委員長 本多 市郎

衆議院議長 山崎 猛殿

報告書

帝國鐵道會計又は通信事業特別會計における昭和二十一年度の經費支辨のための借入金等に関する法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議決シタ因ツテコニ報告スル

昭和二十一年十月四日

委員長 本多 市郎

衆議院議長 山崎 猛殿

會計における昭和二十一年度の經費支辨のための借入金等に関する法律案、復興金融金庫及び産業復興營團出資拂込金支辨のための公債發行に関する法律案、自作農創設特別措置特別會計法案ニ付テ、委員長ノ經過並ニ結果ニ付テ委員長ニ代ツテ御報告申上ゲマス

本各案ノ内容ニ付キマシタ、此ノ際省略サセテ戴キマシテ、質疑ノ要點ニ付テ簡單ニ御紹介申上ゲマス、鐵道運賃ノ値上ニ關スル時期ノ見透シ如何トノ質問ニ對シ、政府當局ヨリ、關係方面ト折衝ノ終リ次第出來ルダケ早ク實施シタイ旨ノ答辯ガアリマシタ、又、十月十日ヨリ値上ガ延ビ、ニナツテ、イツ決マルヤモ知レナイ、ソレニ依ツテ生ズル赤字ヲ理由ニ職首等ノコトヲセナイヤウニト云フ質問ニ對シテ、政府ヨリ、ソレノ理由ニ依ツテ職首ハセナイト云フ答辯ガアリマシタ、次ニ、地主ノ土地不當買上ニ關スル問題ガ頻發シテ居ルガ、之ニ對スル適切ナ處置ヲ要望シタノニ對シ、政府側ヨリ、農地委員會ニ於テ適當處置スル旨ノ答辯ガアリマシタ、又、地主ガ不當ナ價格ヲ以テ土地ヲ小作人ニ轉賣スル場合ニ於テ、其ノ損失ハ小作人ガ負擔スベキモノデアルカ、地主ガ負擔スベキモノデアルカト云フ質問ニ對シテ、農地委員會ニ於テ決定シタ價格ヲ以テ小作人ニ賣却スルモノデアツテ、假ニ其ノ損失ガ生ジタ場合ハ、地主ガ負擔スベキモノデアルト云フ答辯ガアリマシタ

ソレニ依ツテ質問ヲ打切り、引續キ討論ニ入りマシテ、社會黨ノ稻村君ヨリ、復興金融金庫及び産業復興營團ノ如キ特別法人ノ運営ハ、動モスレバ官僚的ニナル處ガアルカラ、其ノ運営ヲ

民主的ニ十分留意セラレタイト云フ意見ノ開陳ガアリマシタ、次イデ採決ノ結果、各案トモ全會一致ヲ以テ可決スベキモノト議決致シマシタ、以上簡單デアリマスガ、御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(山崎猛君) 三案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセスカ

○議長(山崎猛君) 御異議ナシト認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○推熊三郎君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長ノ報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(山崎猛君) 推熊君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

○議長(山崎猛君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

貿易資金特別會計法案外二件 第一讀會の續

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

貿易資金特別會計法案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

恩給法臨時特例案(政府提出)

第一讀會の續(委員長報告)

衆議院議長山崎 猛殿

報告書

一 恩給法臨時特例案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議決シタ因ツテコニ報告スル
昭和二十一年十月四日

委員長 白井 秀吉
衆議院議長山崎 猛殿

〔白井秀吉君登壇〕

○白井秀吉君 私共委員ニ御付託ニナリマシタ只今上程ノ議案、即チ貿易資金特別會計法案、産業復興與營團法案、恩給法臨時特例案、此ノ三案ノ委員會ノ經過ノ概要並ニ結果ニ付テ御報告申上ゲマス

委員會ハ、延長ニ延長ヲ重ネマシタル本期議會ノ會期ガ將ニ盡キントスル此ノ切迫致シマシタル時期ニ於キマシテ、斯クノ如キ論點ノ多イ重要ナル法案ヲ急遽提出致シマシテ審議ヲ急ガレルコトニ付キマシテハ、委員會間ニ於キマシテモ多クノ不滿ガアツタヤウデアリマスルケレドモ、諸般ノ情勢已ムヲ得ザル事情アルコト等ニ深キ考慮ヲ拂ヒマシテ、本案ガ委員會ニ付託セラレマシタル翌日、即チ十月一日ヨリ本日ニ至ルマデ連日委員會ヲ開催致シマシテ、極メテ短期間デハアリマスルケレドモ、終始熱心ニ質疑應答ヲ行ハレ、所謂慎重審議ヲ遂ゲタノデアリマス、是等法案ノ内容ニ付キマシテハ、本會議席上、政府當局ヨリ詳細ニ御説明ガアツタノデアリマスルカラ、之ヲ省略致シマス、尙ホ質疑應答ノ内容ニ付キマシテハ、洵ニ細部ニ至リマシタル廣汎ナモノデアリマスルカラ、是ハ委細速記録ニ依ツテ御承知ヲ願フコトニ致シタイト在ズルデアリマス

而シテ質問ヲ去ル三日ヲ以テ終了致シマシテ、本日討論採決ニ入ルノ運びニ至ツタノデアリマスルガ、今朝會議ヲ開キマスル前ニ、委員全員ノ懇談會ヲ開催致シマシテ、極メテ圓滿ナル空閑氣ノ裡ニオモヒノ意見ヲ交換致シ、希望意見等ヲ特寄リマシテ、茲ニ各派共同提案ノ希望條件ヲ附スルト云フコトニ意見ガ一致致シタノデアリマス、其ノ希望條件ヲ先ヅ朗讀致シマス

貿易資金特別會計法案ニ對スル希望條件

政府ハ速ニ貿易計畫ヲ樹立シ以テ國民經濟ノ確立ヲ圖ルベシ

次ニ産業復興與營團法案ニ對スル希望條件

一、政府ハ第一條ノ目的達成ノ爲メ、中央及地方ヲ通ジテ、貴衆兩院議員、中小商工業者並ニ勤勞者ノ代表ヲ含ム學識經驗者ヲ以テ組織スル産業復興委員會(假稱)ヲ設置スベシ

二、政府ハ本法施行ニ當リテハ復興金融庫庫下有機連繫ヲ保チ、其ノ圓滑ナル運轉ヲ期スベシ

恩給法臨時特例案ニ對スル希望條件

政府ハ現下ノ社會事情及ビ國家財政ノ現狀ニ鑑ミ、速カニ恩給法ニ根本的ノ考慮ヲ拂ハレ渡シ

以上デアリマス、斯クシテ今朝會議ヲ開キマシテ、直チニ討論ニ入リマシタ、各黨ヨリソレノ代表の意見ヲ開陳致サレマシテ、只今朗讀致シマシタル希望條件ヲ附スコトニ依ツテ、贊成者ノ意見ヲ御發表ニナリマシタ、而シテ直チニ採決ニ入リマシテ、滿場一致ヲ以テ原案ヲ通り此ノ三案ヲ決定致シタノデアリマス、續イテ只今朗讀致シ

マシタ希望條件ノ採決ニ入リマシタ、是レ亦滿場一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス、斯クシテ本委員會ハ極メテ圓滿ノ裡ニ此ノ重要法案ヲ議スルコトガ出來マシタノデ、洵ニ欣快ト存ズル簡單デハアリマス、以上ヲ以テ、洵ヲ終リマス(拍手)

○議長(山崎猛君) 三案ノ第二議會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(山崎猛君) 御異議ナシト認メマス、仍テ三案ノ第二議會ヲ開クニ決シマシタ

○推熊三郎君 直チニ三案ノ第二議會ヲ開キ、第三議會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(山崎猛君) 推熊君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(山崎猛君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二議會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

貿易資金特別會計法案

第二議會(確定議)

産業復興與營團法案

第二議會(確定議)

恩給法臨時特例案

第二議會(確定議)

○議長(山崎猛君) 別ニ御異議モアリマセヌ、第三議會ヲ省略シテ三案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○推熊三郎君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際苦米地義三君外二名提出、肥料ノ増産配給ニ

關スル決議案ヲ議題トナシ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(山崎猛君) 推熊君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(山崎猛君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、肥料ノ増産配給ニ關スル決議案ヲ議題ト致シマス、提出者ノ趣旨ヲ詳明ヲ許シマス——提出者苦米地義三君

肥料ノ増産配給ニ關スル決議案

(苦米地義三君外二名提出)

肥料ノ増産配給ニ關スル決議案

肥料ノ増産配給ニ關スル決議案

食糧問題ノ根本的解決ハ懸ツテ肥料ノ増産配給ニ在リ、依ツテ政府ハ速カニ左ノ措置ヲ講ズベシ

一、政府ハ速カニ肥料行政ヲ一元化シ、肥料ノ増産配給ニ對シテ適切ナル施策ヲ強行シ、以テ食糧ノ増産ヲ圖ルベシ

二、政府ハ化學肥料工業ノ復興ヲ促進シ、必要ナル資材、機器及ビ資金ノ供給ヲ圓滑ナラシメ、企業ノ合理的整備ヲ行ヒ、速カニ生産増強ノ實ヲ擧グベシ

三、政府ハ食糧増産上絕對的要素タル燐酸肥料、加里肥料ノ國內自給不可能ナル現狀ニ鑑ミ、原料タル燐礦石年額八十萬噸及ビ加里鹽年額十萬噸以上ノ輸入ヲ聯合國側ニ懇請シ、速カニ之ガ實現ヲ期スベシ

右決議ス

〔苦米地義三君登壇〕

○苦米地義三君 只今議題ニナリマシタ肥料ノ増産配給ニ關スル決議案

ニ對シマシテ、其ノ提案ノ趣旨ヲ詳明致シタイト在ジマス、先ヅ決議案ヲ朗讀致シマス

決議文

食糧問題ノ根本的解決ハ懸ツテ肥料ノ増産配給ニ在リ、依ツテ政府ハ速カニ左ノ措置ヲ講ズベシ

一、政府ハ速カニ肥料行政ヲ一元化シ、肥料ノ増産配給ニ對シテ適切ナル施策ヲ強行シ、以テ食糧ノ増産ヲ圖ルベシ

二、政府ハ化學肥料工業ノ復興ヲ促進シ、必要ナル資材、機器及ビ資金ノ供給ヲ圓滑ナラシメ、企業ノ合理的整備ヲ行ヒ、速カニ生産増強ノ實ヲ擧グベシ

三、政府ハ食糧増産上絕對的要素タル燐酸肥料、加里肥料ノ國內自給不可能ナル現狀ニ鑑ミ、原料タル燐礦石年額八十萬噸及ビ加里鹽年額十萬噸以上ノ輸入ヲ聯合國側ニ懇請シ、速カニ之ガ實現ヲ期スベシ

我が國本年度ノ食糧問題ハ、聯合軍最高司令部ノ格段ナル御援助ニ依リマシテ、今春來幸ウジテ其ノ危機ヲ突破シテ參ツタノデアリマスガ、幸ヒニモ本年ハ稀ナル豐作ニ恵マレマシテ、前途ニ光明ヲ認メナガラ、今其ノ端期ヲ乘越エツ、アルノデアリマス、併シナガラ國民ハ日々當面スル所ノ食生活ニ對シマシテハ、今尚ホ不安ト焦燥ノ念ニ驅ラレナガラ、現ニ耐乏生活ヲ續ケテ居ルコト云フ狀態デアリマス、由來土地狹小、人口稠密ナル我が國ニアリマシテハ、食糧問題ノ危惧ハ、常ニ我我ノ家庭ヲ脅カシ、生活ニ不斷ノ脅威ヲ與ヘツ、アルノデアリマスルガ、斯カル國家ノ窮境ハ、如何ニシテ之ヲ打

開スベキデアリマセウカ、要ハ農業ノ振興發展ニ依リマシテ、食糧ノ豊富ナル増産ヲ圖ルニアルハ勿論デアリ、是ガ實現策ニ付キマシテモ、多クアルノデアリマセウカ、而モ其ノ中心ヲナス所ノ最重要ナル緊急對策ハ、實ニ肥料ノ増産供給ニアルト思フノデアリマス。

古來肥料ナケレバ農業ナシト云フ諺ガアルノデアリマスガ、我が國ノ農業ハ、全ク其ノ通りデアリマシテ、總テノ農産物ハ、實ニ肥料ノ變形ダト申シテモ敢テ過言デハナイノデアリマス、然ルニ從來肥料ノ國內供給ハ極メ乏弱デアリマシテ、明治以來、窒素肥料ハ主トシテ滿洲ヨリ多量ノ大豆粕ヲ輸入シ、又硫酸・加里肥料ハ、遠ク歐米ヨリ輸入致シテ居ツタコトハ、諸君御承知ノ通りデアリマス、獨リ過燐酸肥料ダケハ、硫酸資源ニ惠マレマシテ、其ノ生産工業ハ比較的早ク發達シ、國內ノ需要ヲ滿シテ、尙ホ東亞ノ各地及ビ滿洲、米國ニマデモ輸出スルノ能力ヲ具ヘタノデアリマス、是トテ其ノ原料タル燐礦石ハ、米國・「アフリカ」・大洋諸島カラ輸入ヲ仰イデ居ツタノデアリマス、第一次世界大戰當時「ドイツ」ニ於テ發明サレマシタ所ノ空中窒素固定工業ハ、爾來歐米各國ニ於テ急速ニ發達シ、我が國ニ於テキマシテモ、昭和ノ初メ頃ヨリ各種ノ製造特許ヲ輸入致シマシテ、企業ガ勃興シ見タノデアリマスガ、是等企業ガ未ダ完成セザルニ先ダテ、硫安ノ極端ナル國際的「ダンピング」ニ遭遇致シマシテ、遺憾ナガラ十分ナル發達ヲ遂グルコトハ出来ナカツタノデアリマス、併シナガラソレデモ昭和十二、三年頃マデニハ、朝鮮ノ大規模工場ノ完成ト相俟ツ

テ、我が國ノ窒素肥料工業ハ漸ク國內供給ヲ滿シ得ル程度ニ達シタノデアリマス、ケレドモ此ノ硫安工業ガ更ニ躍進シテ、化學工業タル本質ヲ發揮スル段階ニ達スルノ暇ナク、支那事變以來ノ統制政策ニ拘束サレマシテ、其ノ進步發達ハ停止セザルヲ得ナカツタノデアリマス、ノミナラズ戰時中ノ補修資材等ノ不足ニ依リマシテ、機械ノ修理更新・阻マレ、其ノ生産能力ハ急速ニ減退シ、加フルニ原料・材料ノ品價低ト、「アンモニア」ノ一部ハ戰爭用ニ轉用サレマシタノデアリ、肥料ノ生産高ハ遂次減少シ、遂ニ農家ヘノ供給ハ、戰前ニ比較致シマシテ實ニ七割以上ノ減少トナツタノデアリマス、ソレ故ニ政府ガ如何ニ机上ノ食料増産計畫ヲ立テマシテモ、又農家ガ如何ニ懸命ナ熱意ト努力トヲ傾注致シマシテモ、斯カル肥料ノ供給量ヲ以テシマシテハ、到底食糧ノ生産確保ハ出來得ナカツタト云フコトハ洵ニ當然ノ結果デアリマス（拍手）若シモ肥料ガ満足ニアリマシタナラバ、昨年ノ如キ天候不良ノ作柄ニ於テキマシテモ、米麥ニ於テ二割乃至三割諸類ニ於テ四割以上ノ増收ヲ擧ゲ得マシタコトハ、農事試驗場ノ實驗ニ依ツテモ明白デアリマス、和田農相ハ先般本會議ニ於テキマシテ、昨年度ノ米作ハ二割七分ノ減收デアツタト云ハレマシタガ、若シ此ノ試驗ノ如ク肥料ガ十分ニ供給出來タトシタナラバ、食糧ノ急迫ハ今年ノ如キ悲惨ナル狀態ニ陥ラナカツタト思フノデアリマス（拍手）即チ我が國ノ緊迫セル食糧問題ヲ解決スル途ハ、ドウシテモ化學肥料ノ増産ハ一日モ早ク實現スル外ハナイト思フノデアリマシテ、是ハ全國農民ノ痛切ナル叫ビデアルバカリデナク、實ニ七千餘萬ノ同胞齊シク熱望シテ已マザル所

デアリマス（拍手）然ルニ政府ノ之ニ對スル施策ハ頗ル微温のデアリマシテ、迅速ナル實行性ヲ缺キ、其ノ聲徒ラニ高クシテ、其ノ實ニ伴ハズ、洵ニ隔靴搔痒ノ感ナキヲ得ナイノデアリマス、即チ窒素肥料工業ニアリマシテハ、復興遲滞ノ原因ト致シマシテ、資材不足ノ問題ガアリマス、ケレドモ若シ政府ガ其ノ所管內ニアル軍需關係工場、又ハ産業設備營團ノ所管工場、若シハ民間遊休工場ニ休眠シテ、アル機器・資材等ヲ動員轉用スルナラバ、資材難ノ隘路ヲ打開スルコトハ決シテ困難デハナイト思フノデアリマス、又資金ニ付キマシテモ、物價ノ異常ナル騰貴ニ依リマシテ、新ナル所要資金ハ相當巨額ヲ必要ト致シマスノデ、普通ノ銀行取引ニ依ツテハ融通困難ノ實情デアリマスカラ、政府ハ之ニ對スル特別便宜措置ト講ジ、急速ニ各生産工場ノ復興増産ヲ促進スベキデアルト存ジマス、然ルニ是等ニ對スル緊急措置ニ付キマシテモ、遺憾ナガラ緩慢不徹底タル勢リヲ免レナイノデアリマス、又燐酸肥料ハ所謂實肥ト稱シマシテ、米麥穀類ノ増産ニハ絕對的要素デアリ、是ナクテハ、窒素肥料ガ幸ヒニ増産サレタトシマシテモ、食糧ノ増産ハ期待出來ナイノデアリマスガ残念ナコトニハ、其ノ原料タル燐礦石ハ我が國內ニ產出致シマセヌノデ、ドウシテモ之ヲ聯合國側カラ供給ヲ仰ガナケレバナラヌ實情デアリマス、隨テ今後肥料問題ノ重要ナル課題ノ一ツハ、實ニ此ノ獨立性ヲ燐礦石ノ輸入確保ニアルト思ハレノデアリマス、仍テ政府ハ此ノ實情ニ即シ、少クモ戰前內地ニ需要サレマシタ數量、即チ年額約八十萬「トン」ノ輸入ヲ全農民、否

至國民ニ代ツテ聯合國ニ懇請シ、適期ニ是ガ輸入ノ實現サル、ヤウ善處サレシコトヲ希望シテ已マヌ次第デアリマス、尙ホ諸類、果樹類、纖維作物等ニ特ニ必要ナル加里肥料ニ付キマシテモ、國內生産ハ極メテ僅少デアリ、草木灰、海藻灰等ノ利用ニ依リマシテ、僅カニ補足致シテ居リマセウカ、從來二十萬「トン」乃至二十五萬「トン」ヲ米、佛、獨逸國カラ輸入致シテ居リマシタノデ、是レ亦燐礦石同様、最小限度年額十萬「トン」以上ヲ輸入スルヤウ努力サレタイノデアリマス、但シ我が國內ニハ加里成分ヲ含有スル礦物ガ各地ニ存在致シテ居リマシテ、其ノ量モ相當多量ニ見込マレルノデアリマスカラ、是ガ開發利用ニ付テハ、政府ハ適當ノ方法ヲ講ジマシテ、將來加里肥料ノ國內供給ヲ圖ルベキダト思フノデアリマス、更ニ又窒素工業ノ重要資材デアアル「アスベスト」、無煙炭ノ如キ國內供給途ナキモノノ輸入、及ビ肥料原料タル燐礦石ノ國內増産確保ノ如キハ、何レモ並行的ニ其ノ施策ヲ講ジ、努力ヲ傾注シナケレバ、所期ノ目的ヲ達シ得ナイコトハ勿論デアリマス、是等緊急問題ノ措置ニ付キマシテハ、政府當局ニ於テソレト「最善」盡シテ居ルト云ハレマセウカ、現在ノ生産狀況ハ、硫安、石灰窒素ニ於テ未ダ戰前ノ半バニ達セズ、燐礦石ノ輸入ノ如キモ、一月以來九月マデ僅カニ七萬八千「トン」ニ過ギマセヌノデ、農民ノ希求スル所ニハ、其ノ距離遙カニ遠イノデアリマス、又本年ハ幸ヒニ稀ナル好順ノ氣候ニ惠マレマシテ、肥料不足ニモ拘ラズ、一般農作物ノ豐稔ヲ見ルニ

至リマシタコトハ、國家ノ爲メ洵ニ幸慶ニ堪ヘザル所デアリマス、併シナガラ其ノ反面ニハ、土壤中ノ肥料分ガ乏、缺乏ヲ來シタト云フコトニナリマスノデ、明年度ニ於ケル肥料増産問題ハ、更ニ一層其ノ重要性ヲ加フルニ至ツタノデアリマス、加之肥料ノ増産ト云フコトハ、單ナル數量ノ要求ニ止マリマセウカ、其ノ生産費ヲ低下シテ肥料價格ノ引下ゲヲ行ヒ、延イテハ米、麥、食糧ノ價格ヲ低廉ナラシメ、以テ國民生活ノ安定ト、經濟復興ノ一大誘因ヲナスモノデアリマス、斯クノ如ク肥料ノ増産ハ、刻下ノ最大急務ナリト絶叫サレテ居ルニ拘ラズ、其ノ生産復興ハ現實ニ於テ停滯遲延ヲ見ツ、アルノデアリマス、其ノ重大ナル原因ニハ實ニ肥料ノ生産行政ガ商工・農林兩省ニ跨ツテ居ルト云フ點ヲ指摘セザルヲ得ナイノデアリマス（拍手）其ノ弊害ノ具體的實例ハ多々アルノデアリマス、ケレドモ、一々茲ニ之ヲ指摘スルコトハ差控ヘマスガ、政府ハ須ク此ノ點ニ付十分ナル檢討ヲ加ヘ、此ノ際速カニ肥料行政ヲ一元化シ、強力ニ其ノ施策ヲ政行スベキダト存ズルノデアリマス（ヒヤ）（拍手）當ニ肥料行政ノミナラズ、我が國ノ産業行政ハ、農工業ヲ一貫シテ密接不離ノ施策ヲ實行スベキ要アルニ拘ラズ、所謂官廳割據主義ノ弊ニ墮シテ、動モスレバ行政ノ圓滑ナル運営ヲ妨ゲ、産業ノ堅實ナル發展ヲ阻得スルガ如キ憾ミアルハ、何人モ之ヲ認ムル所デアリマス（ヒヤ）（拍手）今ヤ新日本再建ノ關頭ニ立ツテ、政府ハ宜シク舊來ノ行政機構ニ根本的檢討ヲ加ヘ、産業行政ハ之ヲ打ツテ一丸トシ、産業省ノ如キ機構ニ統合スベキデハナイカト思フ

以上説明致シマシタ如ク、緊迫セル食糧問題ヲ根本的ニ解決シ、民生ノ安

定ト産業ノ振興トヲ圖リマス爲ニ、茲
ニ肥料増産配給對策ニ關シ、本案ヲ提
起スル次第アリマス、政府ハ速カニ
本案ノ趣旨ニ鑑ミマシテ、適切ナル措
置ヲ講ゼラレンコトヲ強く要望スル次
第デアリマス、何卒御贊成アラント
希望致シマス(拍手)

○議長（山崎猛君）是ヨリ討論ニ入リマス、順次發言ヲ許シマス——田中健吉君

○田中健吉君 私ハ日本社會黨ヲ代表
致シマシテ、只今上程サレマシタ肥料

ノ増産配給ニ關スル決議案ニ對シ、簡
單ニ贊成ノ趣旨ヲ述ベタイト思ヒマス
我方日本社會黨ハ去ル九月二十八

日、二十九日、三十日ノ三日間ニ亙リマシテ開カレマシタ黨ノ大會ニ於テ、重要化學肥料國營案ヲ發表致シタノデ

給方式、即チ肥料國營ニ依ツテコソ、
本決議案ノ趣旨ガ完全ニ生カサレルモ
ノデアルト信ズルノデアリマス、然ラ

ハ我々ノ考ヘテ居ル國營化ノ方式如何ト申シマスレバ、第一ニ肥料國營化ノ對象トナルモノハ、硫酸竝ニ石灰窒素

生産ハル全事業工場、並ニ其ノ附屬施設ヲ轉換實施又ハ計畫中ノ工場ヲ含ミ、之ヲ國有國營トスルコトデアリマシム。

品、副製品、生産事業竝ニ其ノ生産ニ必要ナ一切ノ機器施設モ亦之ヲ國有國營トスルノデアリマス、尤モ當該工場ノ

事情ニ依ツテハ、之ヲ分離シテ一部ヲ私營ニ任セルコトモアルノデアリマス、以上ニ對スル補償問題デアリマス

ルガ、勿論國家ハ民主的ナ補償機關ヲ
設ケテ補償スル必要ガアルノデアリマ
ス

第二ニ肥料行政運営ノ方式デアリマスガ、我が黨ハ國ニ單一ノ肥料廳ヲ設置セントスルモノデアリマス、商工、農林兩省ヨリ、肥料關係及ビ關聯化學工業關係ノ權限、竝ニ日本肥料株式會社ニ依ル配給關係ノ權限ヲ之ニ移シ、生産及ビ配給ノ一元の運営ノ行政機構ヲ確立セントスルモノデアリマス、肥料廳長官ニハ、國務大臣ヲ之ニ充テントスルモノデアリマス、從來ノ官僚的機構ヲ根本的ニ改メ、民主的機構ニ依ツテ人事ヲ更新シ、民間ノ有識經驗者ヲ用ヒルノデアリマス

次ニ肥料應ノ所管スル生産配給品目
デアリマスルガ、其ノ品目ハ、硫酸、
石灰窒素、過磷酸石灰、加里、硝酸、

「アンモニア」、「カーバイド」、「メタ
ノール」、酸素副製品、有機合成品、主要
有機質肥料等デアリマス、次ニ肥料行
政監督官ニ、内閣ニ肥料政策ヲ提

置セントスルモノデアリマス、肥料定
議會ニハ、労働組合、農民組合、技術
者、輸送機關、議會ノ代表者及ビ學識

經驗者ヲ加ヘテ構成スルノデアリマス
第三ハ生産ノ方式デアリマスルガ、
農民組合、農業會、其ノ他農民ノ民主

テ、重要化學肥料ノ需要ヲ測定致シマシテ、部落、町村毎ニ申告サセマシメ、正式ノ「ルート」ヲ通ジテ、國家肥料委員會ニ依リマシ

料廳ノ手ヲ通シ、需要數量ヲ集計シ、肥料廳ニテハ、食糧其ノ他農産物増産計畫ニ應ジテ重要化學肥料二箇年計畫

ヲ作り、年次別生産計畫ニ依ル生産計畫ヲ定メテ、二箇年後ニハ農村ニ肥料ヲ完全ニ供給スルヤウニシナケレバナ

ラスト思フノデアリマス、サウシテ農
村ヨリ集マツテ來タ是等ノ需要量ハ、
必ズ工場ニ割當テ、生産責任ヲ負ハセ

ルヤウニシナケレバナラスト考ヘル
デアリマス
第四ハ經營ノ方式デアリマスルガ、
各肥料工場ニハ必ズ經營委員會ヲ作ラ
ナケレバナリマセス、經營責任者、技
術者、勞働組合代表者ニ依リ經營委員
會ヲ組織シ、其ノ肥料工場ノ經營全般
ノ問題ニ付テ審議決定スルコトガ必要
デアリマス、サウシテ製造品目ノ違ッ
タ各工場毎ニ工場連絡協議會ヲ設置
シ、常ニ各工場毎ニ連絡致シマシテ、資
材、技術、其ノ他百般ノ連絡ヲ圖リマ
シテ、從來ノ如キ資本主義的、商業主

義のナ經營方式ヲ執ツテハナラナイト
考ヘルノデアリマス
第五ニ工場復舊並ニ原料資材ノ對策

デアリマスガ、緊急二箇年肥料増産計
畫ニ照應致シマシテ、工場ノ復舊、補
修、補強、轉換計畫ヲ速カニ實施シ、
其ノ完全ヲ的確ニ實現シナケレバナラ

府ハ必要ナル原材料及ビ生産機器ヲ俾
先のニ確保シ、他ノ關聯産業部門ノ業

務協力體制ヲ立テナケレバナラナイト
考ヘルノデアリマス、即チ熟練労働者
技術者、原料、容器、設備ナドノ未熟

鑛工場ヨリノ發働工場ヘノ吸收及ヒ再配置ヲ行ヒ、無煙炭等、其ノ他重要主原料ノ急速ナル輸入ヲ行ハナケレバナラスト考ヘル次第デアリマス(拍手)。

原料資材ノ中、特ニ硫酸ノ需給並ニ生産ノ綜合計畫ヲ立テナケレバナラスコトハ勿論デアリマス

第六ニ 配給機構及ビ價格ノ決定ノ方
式デアリマスガ、既ニ述ベマシタ生産
責任數量ヲ基準トスル配給計畫ヲ實施

スルト云フノガ、我ガ日本社會黨ノ案
デアリマスガ、先ヅ從來ノ如クデハナ
ク、配給各段階ニ於ケル割當數量及ビ

出荷數計ヲ必ズ公表スルト云フコトデ
アリマス、從來ノ日本肥料株式會社ニ
依ル配給機關ハ、是ハ速クニ解消シナ
ケレバナラナイト考ヘマス(拍手)肥料
應ニ依リ、直接ニ民主的ニ改革セラレ
タ地方肥料委員會及ビ部落肥料委員會
ノ「ルート」ヲ通ジ、農業生産ノ實體ニ
即應致シマシテ、重點的且ツ公平ニ肥
料ヲ配給スルノデアリマス、價格ノ問
題ニ付テハ、我が黨ハ次ノ如ク考ヘル
ノデアリマス、肥料廳ガ取扱フ配給價
格ハ、米價ノ基礎ト致シマシテ、各種
ノ肥料種目ノ生産費ヲ參酌致シマシ

テ、肥料密裁會ノ議決ヲ經テ、肥料廠
ガ之ヲ決定スルノデアリマス、尙ホ肥
料ト現今ノ米價ノ問題ニ付テデアリマ

スガ 現在ノ肥料ノ價格ハ、米價ニ比シテ著シク高イノデアリマス、政府ハ米價ニ對シテ尙ホ明確ナル態度ヲ表明シテ居ラナイノデアリマスガ、其ノ爲

ニ農村ニ於テ米ノ供出ノ隘路トナツテ
居ルノデアリマス、一石千二百圓ト云
フノハ農業會ノ要求デアリマスガ、

我々、色々ナ事情ヨリ致シマシテ、米價ノ値上ガ不可能ノ場合、政府トシテ執ルベキ方策ト致ジマシテ、肥料、農具、農家日用必需品ノ價格ガ、改定

ガ現在買上ゲヨウト致シテ居リマス所
ノ米價ハ均衡ヲ取ルヤウニ致シテ貰ヒ
タイ、即チ現在ノ政府ノ考ヘテ居ル販

ノ米價ト比較致シマシテ、現在ノ肥料、農機具、農家必需品ノ値段ヲ値下デサレルコトヲ望ムモノデアリマス

〔拍手〕和田農林大臣が國民大衆ニ對シ
マシテ如何ニ主食ノ増配ヲ約束致シテ
シテモ、ソレハ供出ガ促進シナイ限り

ハ、増配ハ頼挫スルデアラウコトハ判
像スルマデモナイコトデアリマス、併
出シヨウト思ツテモ、引合ハナイ所、

米價デアツタリ、肥料や農器具や日
品ガ飽極ニ高イ場合ハ、供出ハ容易
促進サレナイダラウト思フノデアリマ
以上ハ我ガ日本社會黨ノ本決議案
對スル贊成ノ態度デアリマス、要スル
ニ本決議案ノ趣旨タル肥料ノ増産配給
ハ、我ガ黨ノ主張スル肥料ノ國有
營、社會化ニ依ツテコソ、其ノ實現現
ガ強ク堅ク約束セラレルノデアリマ
ス、之ヲ以チマシテ私ノ贊成演説ヲ終
リマス（拍手）

○議長（山崎猛君） 東隆君
〔東隆君發聲〕

○東陸君 食糧ノ増産ハ懸ツテ肥料増産ニアルコトハ論ヲ俟チマセズ、土案ガ決議サレコトニ依ツテ、政府

ニ關係方面ヲ擧げサレルコトハ、今蒙
會ガ當然何等カノ形デ肥料問題ヲ取上
ゲ解決スベキ使命ヲ有シナガラ花再會
日ニ至ツタ貴方塞グコトガ出来マス、

此ノ意味カラモ、協同民主黨ハ、本議案ガ上程サレタコトニ賛意ヲ表ス。モノデアリマス、此ノ機會ニ私ハ、我

ガ黨ノ立場カラ、本決議案ニ關聯シテ
所見ノ二、三ヲ述べ、各位ノ御留意
煩ハサントスルモノデアリマス

路デアル工場ノ復舊、資材ノ調達、原料ノ輸入或ハ金融等ハ、正ニ急速ニ打開シナケレバナラヌモノデアリマス、

是等ノ面ニ、幸ヒ戰時中ニ甚ダシイ豊
禍ヲ蒙ラズ、相當額ノ預貯金ヲ有シテ
居リマス農業關係ノ資金ヲ利用スルコ

トハ、私ハ機宜ヲ得タルモノデア
ル思フノデアリマス、即チ中央農林金庫
及ビ地方ノ農業會ガ保有シテ居リマス

ル資金ヲ、工場ノ運営ニ對シテ融資スル、在來ノ株式會社ニ依ル所ノ經營ニ對シテ、農業關係ノ資金ヲ流入スルコトニ依ツテ、協同經營ノ形ヲ進メルコトハ、最も良イ方法デハナイカト存ズルノデアリマス、又地帯別ニハ農業關係ノ資金ヲ以テ、或ハ農業經營團體ガ直營ヲ以テ肥料工場ヲ經營スル、斯ウ云フヤウナコトモ、是ハ當然勢ツテ宜イ方法デハナイカト思フノデアリマス、社會黨ノ各位ハ、肥料ノ國營ニ付テ考ヘラレテ居リマスガ、我黨ト致シマシテハ、電力デアリマストカ、運輸通信、炭礦等ノヤウナ基本的ナ産業ニ對シマシテハ、國營デヤル、斯ウ云フコトニ積極的ナ態度ヲ執ルコトガ出來マスガ、肥料ノヤウニ、農業者ノミガ之ヲ消費シテ、廣義農業ノ立場カラ申シマスト、當然自己生産ヲスベキモノハ、我黨ノ主張スル協同主義ニ依ル經營ヲ適當ト認メマスノデ、敢テ茲ニ是ダケノコトヲ述ベテ置ク次第デアリマス

次ニ肥料ノ配給ニ付テハ、日本肥料株式會社ガアリマスガ、是ハ戰時中ノ統制會社デアリマス、今日ハ當然解體スベキモノデアリマス、茲ニハ解體スベキ理由ヲ申述ベマセヌガ、速カニ日肥ノ解體ヲ農業團體並ニ全農業者ニ代ツテ強ク主張スルモノデアリマス（拍手）肥料ハ目下、御承知ノヤウニ生産ハ商工省、配給ハ農林省トナツテ居リマスガ、強力ニ肥料行政ノ一元化ヲ策スル爲ニハ、私ハ農林省ノ外廳トシテ肥料廳ヲ創設シ、一貫セル肥料行政ヲ願フモノデアリマス、以上簡單デアリマスガ、我ガ黨ノ立場カラ述ベマシテ、本決議案ニ賛意ヲ表スル次第デアリマス（拍手）

○議長（山崎猛君）是ニテ討論ハ終局致シマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、本決議案ハ之ヲ可決スルニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長（山崎猛君）御異議ナシト認メマス、仍テ本決議案ハ可決セラレマシタ（拍手）是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後三時三十四分散會

定價 一部 七十錢

發行所 東京都牛込區市ヶ谷本村町
電話九段五三一〇
振替東京一九〇〇〇
印刷局 課